

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 福岡財務支局長

【提出日】 平成30年5月14日

【四半期会計期間】 第16期第2四半期(自平成30年1月1日至平成30年3月31日)

【会社名】 株式会社フォーシーズホールディングス

【英訳名】 4Cs Holdings Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 洲崎 智広

【本店の所在の場所】 福岡市中央区薬院一丁目1番1号

【電話番号】 092 - 720 - 5460

【事務連絡者氏名】 経営企画室 室長 内野 紗希

【最寄りの連絡場所】 福岡市中央区薬院一丁目1番1号

【電話番号】 092 - 720 - 5460

【事務連絡者氏名】 経営企画室 室長 内野 紗希

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第15期 第2四半期連結 累計期間	第16期 第2四半期連結 累計期間	第15期 連結会計年度
会計期間		自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日	自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日	自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日
売上高	(千円)	1,505,020	1,085,129	2,668,408
経常利益	(千円)	92,924	11,455	161,356
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益又は 親会社株主に帰属する 四半期純損失()	(千円)	59,717	19,483	200,597
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	59,717	19,483	200,597
純資産額	(千円)	1,343,402	1,460,100	1,478,076
総資産額	(千円)	3,491,062	3,177,710	3,268,285
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損失 金額()	(円)	8.69	2.84	29.21
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	38.2	45.8	45.1
営業活動によるキャッシュ・ フロー	(千円)	197,978	73,047	240,434
投資活動によるキャッシュ・ フロー	(千円)	33,633	21,164	44,444
財務活動によるキャッシュ・ フロー	(千円)	182,343	78,768	196,689
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(千円)	1,451,498	1,559,469	1,586,360

回次		第15期 第2四半期連結 会計期間	第16期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自 平成29年1月1日 至 平成29年3月31日	自 平成30年1月1日 至 平成30年3月31日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	(円)	3.56	1.72

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第15期第2四半期連結累計期間及び第15期連結会計年度については希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため、第16期第2四半期連結累計期間については希薄化効果を有する潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失のため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、前連結会計年度において、「カラーコンタクトレンズ事業」を営むクレイトン・ダイナミクス株式会社の全株式を譲渡したため、第1四半期連結会計期間より、当社の報告セグメントは「コミュニケーション・セールス事業」及び「化粧品卸事業」の2セグメントとなっております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び当社の関係会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、緩やかな回復基調の動きが続いております。一方、海外の政策動向への懸念や海外経済の不確実性による日本国内への景気下押しリスクも抱えており、依然として楽観視できない状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、更なる成長に向けて、各事業会社がそれぞれの特性に合わせた積極的な施策を推進してまいりました。

また、前連結会計年度にクレイトン・ダイナミクス株式会社の全株式を譲渡したことにより、前第2四半期連結累計期間に比べて、売上高が424,220千円減少しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,085,129千円(前年同四半期比27.9%減)となり、営業利益16,420千円(同56.7%減)、経常利益11,455千円(同87.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失19,483千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益59,717千円)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。なお、前連結会計年度において、「カラーコンタクトレンズ事業」を営むクレイトン・ダイナミクス株式会社の全株式を譲渡したことにより、当連結会計年度における当社の報告セグメントは、「コミュニケーション・セールス事業」及び「化粧品卸事業」の2セグメントとなっております。

(コミュニケーション・セールス事業)

コミュニケーション・セールス事業におきましては、新たな顧客層の取り込みとリピート率の向上を図るための施策に取り組んでまいりましたが、新規顧客の獲得に苦戦する状況が続いております。その他、Web・スマホ対応にも注力してまいりました。これにより売上高778,249千円(前年同四半期比4.3%減)、セグメント利益8,288千円(同33.8%減)となりました。今後も季節に応じた新商品の導入や、Web販売強化のためのサイト構築など、積極的なマーケティング活動を行ってまいります。

(化粧品卸事業)

化粧品卸事業におきましては、古くなった角質を除去するための商品『ナチュラルアクアジェル Cure』及び岩塩を原料とする入浴剤『Cure バスタイム』は依然として、市場でも高い評価を受けております。本年2月からは、酵素の力で汚れを落とす『エクストラオイルクレンジング Cure』及び、酵素で汚れを分解し泥で吸着させる『スペシャルパウダーソープ Cure』の2つの新商品を販売開始しております。いずれの新商品も、当初売上目標の2倍以上売り上げるなど、既存商品に加え順調に売上高を伸ばしております。これにより売上高306,915千円(前年同四半期比14.7%増)、セグメント利益63,733千円(同0.8%増)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は3,177,710千円(前連結会計年度末3,268,285千円)、その内訳は流動資産2,516,230千円、固定資産661,480千円となり、前連結会計年度末に比べ90,574千円減少いたしました。これは主に、現金及び預金の減少26,479千円、売掛金の減少29,959千円、その他流動資産の減少24,532千円等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は1,717,609千円(前連結会計年度末1,790,208千円)、その内訳は流動負債813,978千円、固定負債903,631千円となり、前連結会計年度末に比べ72,598千円減少いたしました。これは主に、買掛金の増加8,907千円、未払法人税等の増加16,266千円、株主優待引当金の減少24,718千円、長期借入金の減少71,474千円等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は1,460,100千円(前連結会計年度末1,478,076千円)となり、17,975千円減少いたしました。これは親会社株主に帰属する四半期純損失19,483千円を計上したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、1,559,469千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、73,047千円(前年同四半期は197,978千円の獲得)となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益11,455千円、減価償却費29,627千円、のれん償却額23,258千円、株主優待引当金の減少24,718千円、売上債権の減少29,959千円、たな卸資産の増加10,837千円、仕入債務の増加8,907千円、法人税等の支払額又は還付額37,123千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用された資金は、21,164千円(前年同四半期は33,633千円の使用)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出2,380千円、無形固定資産の取得による支出20,526千円、貸付金の回収による収入3,000千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用された資金は、78,768千円(前年同四半期は182,343千円の獲得)となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出77,546千円等によるものであります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年5月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,973,470	6,973,470	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100 株であります。
計	6,973,470	6,973,470		

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成30年5月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年1月1日～ 平成30年3月31日	-	6,973,470	-	882,788	-	348,109

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
井 康彦	福岡県福岡市中央区	1,339,280	19.20
株式会社ウェルホールディングス	福岡県福岡市中央区天神二丁目14番8号	1,230,500	17.64
ワイズコレクション株式会社	東京都世田谷区宮坂一丁目37番20号	560,000	8.03
大坂 浩幸	福岡県福岡市西区	224,000	3.21
株式会社SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1号	108,337	1.55
鳥居 徹	熊本県熊本市中央区	100,090	1.43
清水 英明	千葉県袖ヶ浦市	63,450	0.90
堀内 昭彦	福岡県福岡市早良区	59,100	0.84
近藤 雅喜	愛知県日進市	50,000	0.71
楽天証券株式会社	東京都世田谷区玉川一丁目14番1号	40,100	0.57
計		3,774,857	54.13

(注) 上記のほか、当社所有の自己株式が106,290株(1.52%)あります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 106,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,788,500	67,885	
単元未満株式	普通株式 78,770		
発行済株式総数	6,973,470		
総株主の議決権		67,885	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄には、証券保管振替機構名義の株式100株(議決権1個)が含まれております。
 2. 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式90株及び証券保管振替機構名義の株式50株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
(株)フォーシーズホールディングス	福岡市中央区薬院 一丁目1番1号	106,200		106,200	1.52
計		106,200		106,200	1.52

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成30年1月1日から平成30年3月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年10月1日から平成30年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,838,641	1,812,161
売掛金	143,632	113,672
商品及び製品	264,847	283,799
原材料及び貯蔵品	22,409	14,295
その他	316,840	292,308
貸倒引当金	12	6
流動資産合計	2,586,358	2,516,230
固定資産		
有形固定資産	33,349	35,161
無形固定資産		
のれん	164,732	141,474
顧客関連資産	368,807	351,653
その他	72,383	83,747
無形固定資産合計	605,922	576,875
投資その他の資産	42,653	49,444
固定資産合計	681,926	661,480
資産合計	3,268,285	3,177,710
負債の部		
流動負債		
買掛金	41,643	50,551
短期借入金	450,000	450,000
1年内返済予定の長期借入金	154,072	148,000
未払法人税等	3,375	19,642
賞与引当金	14,653	11,170
返品調整引当金	825	673
株主優待引当金	29,522	4,804
その他	138,038	129,137
流動負債合計	832,132	813,978
固定負債		
長期借入金	870,810	799,336
資産除去債務	17,153	17,177
その他	70,112	87,117
固定負債合計	958,076	903,631
負債合計	1,790,208	1,717,609
純資産の部		
株主資本		
資本金	882,788	882,788
資本剰余金	348,117	348,117
利益剰余金	273,855	254,371
自己株式	29,938	30,147
株主資本合計	1,474,823	1,455,130
新株予約権	3,253	4,970
純資産合計	1,478,076	1,460,100
負債純資産合計	3,268,285	3,177,710

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)
売上高	1,505,020	1,085,129
売上原価	597,912	253,991
売上総利益	907,107	831,137
返品調整引当金戻入額	1,793	825
返品調整引当金繰入額	1,474	673
差引売上総利益	907,427	831,289
販売費及び一般管理費	869,489	814,869
営業利益	37,937	16,420
営業外収益		
受取利息	3,171	1,990
貸倒引当金戻入額	64,249	
受取手数料	264	
その他	4,050	1,102
営業外収益合計	71,735	3,092
営業外費用		
支払利息	10,366	7,957
事務所移転費用	5,877	
その他	505	100
営業外費用合計	16,748	8,057
経常利益	92,924	11,455
税金等調整前四半期純利益	92,924	11,455
法人税、住民税及び事業税	10,583	13,697
法人税等調整額	22,624	17,241
法人税等合計	33,207	30,939
四半期純利益又は四半期純損失()	59,717	19,483
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	59,717	19,483

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失()	59,717	19,483
四半期包括利益	59,717	19,483
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	59,717	19,483
非支配株主に係る四半期包括利益		

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	92,924	11,455
減価償却費	26,482	29,627
のれん償却額	28,901	23,258
貸倒引当金の増減額(は減少)	64,248	5
賞与引当金の増減額(は減少)	2,372	3,483
返品調整引当金の増減額(は減少)	319	152
株主優待引当金の増減額(は減少)	19,351	24,718
受取利息及び受取配当金	3,171	1,990
支払利息	10,366	7,957
売上債権の増減額(は増加)	356,426	29,959
たな卸資産の増減額(は増加)	115,756	10,837
仕入債務の増減額(は減少)	174,236	8,907
その他	189,915	26,151
小計	294,201	43,824
利息及び配当金の受取額	3,171	18
利息の支払額	10,392	7,918
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	89,001	37,123
営業活動によるキャッシュ・フロー	197,978	73,047
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	4,815	2,380
無形固定資産の取得による支出	19,634	20,526
貸付金の回収による収入		3,000
敷金の差入による支出	8,372	846
その他	810	410
投資活動によるキャッシュ・フロー	33,633	21,164
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	200,000	
長期借入れによる収入	166,072	
長期借入金の返済による支出	183,015	77,546
リース債務の返済による支出	1,118	1,013
その他	404	209
財務活動によるキャッシュ・フロー	182,343	78,768
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,674	3
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	348,363	26,890
現金及び現金同等物の期首残高	1,103,135	1,586,360
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,451,498	1,559,469

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
クレイトン・ダイナミクス株式会社	143,100千円	134,820千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)
広告宣伝費	201,925千円	189,455千円
給料手当	166,980	147,354
賞与引当金繰入額	12,223	9,265

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	1,702,557千円	1,812,161千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	251,059	252,691
現金及び現金同等物	1,451,498	1,559,469

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自平成28年10月1日至平成29年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	コミュニケーション・セ ールズ事業	化粧品 卸事業	カラーコンタク トレンズ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	813,458	267,341	424,220	1,505,020		1,505,020
セグメント間の 内部売上高又は振替高		144		144	144	
計	813,458	267,485	424,220	1,505,164	144	1,505,020
セグメント利益又は損失 ()	12,518	63,211	70,073	5,656	32,280	37,937

当第2四半期連結累計期間(自平成29年10月1日至平成30年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	コミュニケーション・セ ールズ事業	化粧品 卸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	778,249	306,879	1,085,129		1,085,129
セグメント間の 内部売上高又は振替高		36	36	36	
計	778,249	306,915	1,085,165	36	1,085,129
セグメント利益	8,288	63,733	72,022	55,601	16,420

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間
報告セグメント計	5,656	72,022
全社収益(注)1	124,800	126,000
全社費用(注)2	94,099	122,720
その他の調整額	1,580	58,881
四半期連結損益計算書の営業利益	37,937	16,420

(注)1. 全社収益は、当社におけるグループ会社からの経営指導料等であります。

2. 全社費用は、当社における持株会社運営に係る費用であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、前第3四半期連結会計期間期首をみなし売却日として、クレイトン・ダイナミクス株式会社の全株式を譲渡し、連結の範囲から除外したことに伴い、第1四半期連結会計期間より「カラーコンタクトレンズ事業」を報告セグメントから除外しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり 四半期純損失金額()	8円69銭	2円84銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又 は親会社株主に帰属する四半期純損失金額 ()(千円)	59,717	19,483
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額又は親会社株主に帰属す る四半期純損失金額()(千円)	59,717	19,483
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,868	6,867
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整 後1株当たり四半期純利益金額の算定に含 めなかった潜在株式で、前連結会計年度末 から重要な変動があったものの概要	平成28年11月11日取締役会決議 第13回ストック・オプション (普通株式 48,000株) 平成28年11月11日取締役会決議 第14回ストック・オプション (普通株式 52,000株)	

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第2四半期連結累計期間については希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため、当第2四半期連結累計期間については希薄化効果を有する潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失のため、記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年5月14日

株式会社フォーシーズホールディングス
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	野	澤	啓
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	池	田	徹

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フォーシーズホールディングスの平成29年10月1日から平成30年9月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成30年1月1日から平成30年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年10月1日から平成30年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フォーシーズホールディングス及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。